平成23年度
在宅医療連携拠点事業
成果報告会

～社会医療法人長崎記念病院の活動～

厚生労働省
平成23年度在宅医療連携拠点事業成果報告会
平成24年3月8日（木）

社会医療法人長崎記念病院
経営企画部・事務部
福井　洋一郎

事業対象：長崎市南西部の人口及び医療機関分布

人口：南西部　68,539
（長崎市　443,896 ）

年齢構成	男 性	女 性
65歳～	6,779	10,201
高齢化率	21.3%	27.9%

病院病床数（括弧内当院）

一般病床数：263床（164）

回復期リハ病床数：117床（48）

医療療養病床数：44床（44）

介護療養病床数：48床（48）

精神病床数：1,110床（0）

長崎市南西部の介護保険三施設の状況

長崎市南西部地域の在宅医療に関する問題点

- 半島南端部の高齢化が著しく高い
- 医療機関の地域偏在により地域格差が激しい
- 地域の病床数･病床種別割合が偏っており、急性期医療･慢性期医療をはじめ、精神疾患、認知症等の対応が困難
- 地域の介護供給（入所定員･訪問看護ステーション）が不十分である
- 医療･介護･福祉の連携が不十分

在宅医療連携拠点事業で長崎記念病院に期待される役割

平成23年度事業開始時アンケートより

- 協議会の開催

  在宅医療連携拠点事業必須実施項目1

  「「顔の見える連携」を構築するための交流の機会の確保」

- 在宅医療の後方支援(急性増悪時･ショートステイ)

  在宅医療連携拠点事業必須実施項目2

  「在宅医療従事医者の負担軽減支援」

- 研修会の開催,カンファランスの実施,情報発信機能

  在宅医療連携拠点事業必須実施項目3

  「効率的な医療提供のための多職種連携」

協議会の開催　1

８月開催協議会

講演内容：長崎市南西部地域在宅医療の問題点
在宅医療連携拠点事業説明
アンケート結果分析報告

参　加　者：医師･看護師･セラピスト･管理栄養士･薬剤師･ＭＳＷ･ケースワーカー･介護従事者･行政関係者

参加施設：病院･診療所･調剤薬局･居宅介護支援事業所
地域包括支援センター･介護保険三施設･グループホーム･訪問看護ステーション等

参加人数：150名

協議会開催後、名刺交換会、懇親会を実施

協議会の開催　2

11月開催協議会　長崎在宅Dr.ネットと共催

テーマ　：南西部も頑張っています！
　　長崎南西部地区の現状と今後の課題

講演内容：症例検討
　　在宅医療連携拠点事業中間報告

参加人数：200名

病院医師、病院看護師、MSW、在宅医、訪問看護ステーション看護師、ケアマネージャーなど症例に係わった多職種からの発表が行われ、多施設・多業種間の相互理解を深めることができた

在宅医療の後方支援

当院は、救急告示病院、輪番制病院群病院として地域に365日24時間の救急医療を提供することにより社会医療法人と認定されたが、当該事業を実施するにあたり、病院長をチームリーダーとして、より一層、在宅患者や介護施設利用者の急性増悪時の受入れの推進を方針とした。

また、24年度から、保有する介護療養型医療施設（48床）の空床状況をホームページにアップし、地域におけるショートステイの利便性を向上することとした。

研修会の開催，カンファランスの実施，情報発信機能

MSW、ケアマネージャー、看護師等の役割

医療機関の地域連携室･ケアマネージャー、訪問看護師、訪問セラピストが当該事業の窓口･主幹となることで、医療･介護･福祉間の連携が円滑に行われた。

地域連携室			
早瀬チユキ	（室長・看護師）	中村美穂子	（ＭＳＷ）
大町智子	（ＭＳＷ）	山崎綾	（ＭＳＷ）
大塚ゆかり	（事務員）	吉野幸代	（病棟師長）
山下潤一郎	（リハ部課長）		

居宅介護支援事業所	
松尾智香子	（看護師・ケアマネ）
永野千佳	（看護師・ケアマネ）

訪問看護師	2名
訪問リハ	2名

平成24年度より、地域連携室、居宅介護支援事業所、訪問看護、訪問リハを「地域総合連携センター」として統一し、院内外の連携や医療･介護･福祉支援を効率的に提供できる体制を構築する

地域連携室等の活動実績

グループワークの開催
テーマ：「認知症があっても、住み慣れた場所で、その人らしい、ふつうの暮らしを実現していくためには」
開催数：2回　参加者計：84名

多職種･多施設参加のカンファランスの開催・参加・調整
院外への参加：2ケース　院内での開催･調整：8ケース

研修会･勉強会の開催
テーマ「リスクマネジメントの具体策と情報管理における留意点」
「体位交換･移乗の技術の習得」
「口腔ケアの技術の習得」
「噛む･飲み込みが困難な方の食事について」
「嚥下障害をお持ちの方への摂食訓練の実践！」

アンケートの実施、「地域連携室だより」の作成発行

在宅医療連携拠点事業活動風景

地域連携室だより（毎月発行）

地域連携室スタッフ

その他の活動実績
行政等との連携、地域住民への講演等

・長崎市医師会との連携

当該事業の紹介、第1回協議会挨拶等のご協力・ご支援

・認定NPO法人在宅Dr.ネットとの連携

オブザーバー、相談会、協議会への参加、講師参加、
症例検討会共催等のご協力・ご支援

・地域包括支援センターとの連携

事業説明会の開催、相談会･協議会への参加等のご協力

・長崎市（長崎市医師会）との連携

長崎市包括ケアまちんなかラウンジの長崎市南部地域
住民講演会を共催、活動参加等のご支援・ご協力

・長崎県（長崎県歯科医師会）との連携

長崎県在宅歯科医療連携室事業の実施

平成23年度在宅医療連携拠点事業成果まとめ

高齢化、医療･介護･福祉のインフラや人員不足、過疎化が加速する長崎市南西部地域において、当該事業を実施したことにより、「顔の見える連携」が構築され、協議会、カンファランス、勉強会等の開催で、多職種･多施設間の相互理解が可能となり、お互いの立場を尊重し、協力ができる体制が以前より確立することできた。

インフラ不足といったハード面を、人間関係（連携･協力･支援）といったソフト面で完全にカバーはできないが、地域住民の安全･安心や、医療介護従事者の負担軽減を効率的に提供するためには活動の継続が必要である。

最後に

在宅医療連携拠点事業に対する私の期待

この在宅医療連携拠点事業を行うことで、

- 蚊焼から野母崎・脇岬・樺島地域の在宅医療をカバーできないか。
- 南西部地域の医療・介護・福祉のスタッフは顔の見える関係で連携が取れていて安心という実感を地域住民に抱いてもらえないか。
- 各医療機関・施設のスタッフに、日々の自分の仕事が地域の役に立っているという自信を与えられないか。

たくま医院　詫摩和彦先生の講演でいただいた提言